

2017.3.1

認知症等による行方不明者早期発見に向けた
Bluetooth機器を利用した地域づくりについて



目次

はじめに	3
事業実施の背景.....	5
市の沿革	5
本市の認知症施策	6
事業実施に至った背景.....	8
事業実施にあたり取り組んだこと	8
おでかけあんしん見守り事業	9
GPS 助成対象機器の拡充	14
見守りのネットワーク	14
事業の概要.....	15
Bluetooth 機器を利用した地域づくりの概要.....	15
事業の周知活動	19
周知方法検討会の実施	19
体験リリース会の開催.....	19
検証及び実証実験	20
事業の効果.....	21
早期発見・保護の効果.....	21
事前登録者の増加	21
検索時の効果	22
地域づくり	22
行方不明検索体験	25
検証・実証実験の効果.....	26
市内に設置した固定受信器 38 か所の受信情報	26
今後の展開.....	27
周知活動	27
Bluetooth 機能拡大	28
資料	29
資料 1：本市の高齢者人口.....	29

資料 2 : 【施策の利用状況】	30
資料 3 : 平成 2 8 年度行方不明届出・対応状況】	30
資料 4 : 地域や関係機関等への説明及び市民への啓発	31
資料 5 : 事業実施にあたり市内ケアマネジャーに行った調査結果	32
資料 6 : Bluetooth タグ配布のための個別訪問時にいただいた意見・感想	33
資料 7 : 固定受信器の設置場所及び通過ログ	34
資料 8 : Bluetooth タグの検証を兼ねた検索体験報告	30
実施日時及び場所	37
検証結果	37
終わりに	40

はじめに

ずっと長岡京市で 暮らそう！

京都府長岡京市長 中小路 健吾



団塊の世代が高齢期を迎え、全国的に4人に1人が高齢者となる超高齢社会に突入しています。本市でも平成28年4月1日現在、高齢者人口は20,667人高齢化率25.7%となり、まさに超高齢社会となっています。認知症は高齢になるほど発症率が高い病気ですが、若くても発症することがあり、今日では誰もがなりうる身近な病気です。警察庁の発表では、認知症等による行方不明者は3年連続で1万人を超えています。大半の方が無事に保護され家族に引き渡されますが、残念ながら発見された時には死亡されている方もあります。このため、警察のみならず、幅広く市民が参加する高齢者の捜索・発見・通報・保護や見守りネットワークを市町村及び広域的な体制として構築し、機能させていくことが求められています。

認知症になってもご本人とご家族が安心して地域で生活し続けるためには、地域の誰もが認知症について正しく理解をして、支え合うことのできる地域、まちづくりを進めることが極めて重要です。日頃からの見守りによって認知症への理解が深まっていき、認知症への理解が深まれば、行方不明者の早期発見や予防にもつながります。本市では平成26年度より「おでかけあんしん見守り事業」を開始し、認知症等による行方不明者が無事に自宅に帰ることができるようこれまでの見守りネットワークの拡充を行いました。お一人お一人のお互いを思いやる気持ちを見守り行動へとつなげていきたいという思いから、平成27年度にはBluetooth機器を利用した地域づくりを開始しました。

市内各地域においても高齢者見守りネットワークへの関心が徐々に高まり、市民の方々にはメールサポーターやぶじかえる応援団としてご協力いただき、また、市内事業所や団体の皆様にはおでかけあんしん見守り隊としてご協力いただき、地域の支援を得た見守り体制が整備されつつあることを感謝しています。市民の皆さんや市内事業所等の皆様の思いが紡ぐ見守りネットワークを本市から全国へ発信していきたいと考えています。

今後とも、年を重ねても、認知症になっても、自分らしく生活できるまちづくりのために、お一人お一人が地域でできることを考えていただきますとともに、この事業に皆様方のお力添えをいただきますことを切にお願いをいたします。

向日町警察署長 竹内 敏明



時下 ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

長岡京市の高齢福祉行政に携わる皆様におかれましては、平素から警察行政各般にわたり、ご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。とりわけ、認知症の高齢者にかかる諸問題につきましては、当署と緊密に連携して対応していただいておりますことを、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、認知症の高齢者を取り巻く現状についてではありますが、昨年1年間に京都府内で、認知症が原因で徘徊等を行い、保護された高齢者は2,238人であり、一昨年と比べ243人も増加するなど、年々増加している傾向にあります。

この問題を解決するためには、誰もが認知症についての正しい知識を持ち、認知症の方が安心して暮らせるように「見守る」ことが大切なのではないでしょうか。

長岡京市では、認知症による徘徊等で行方不明になるリスクが高い高齢者を事前に登録し、その方にBluetooth機器を配布することにより、所在不明となったときにその足取りの確認を可能としたほか、ボランティアの方々にも情報提供を行うことで行方不明者を早期に搜索する体制を整えるなど、高齢者を見守るための様々な活動を推進していると伺っております。

この活動がさらに拡大、浸透していくことで、認知症高齢者やその家族が安心して暮らせる社会になることを切に望むところであります。

当署は、今後とも高齢福祉行政に携わる皆様と相互に連携して、「安全・安心が実感できる住みよいまち」となるよう取り組んでいく所存でございますので、引き続き、ご協力をよろしくお願いいたします。

事業実施の背景

市の沿革

長岡京市は、京都盆地の西南部に位置し、北は向日市・京都市、東は京都市、南は大山崎町、西は西山連峰を境に大阪府と接しており、東西約 6.5 キロメートル、南北約 4.3 キロメートル、総面積 19.17 平方キロメートルで東西に長い長方形をなしています。

総面積の約 65 パーセントが可住地の平たん部であり、残りの西山山地は、市街地の背景として本市の景観の主体となっています。西山山地は、近畿圏近郊緑地保全区域に指定され、景観の保全が図られています。中央部は住宅・商業・工業・農業に広く利用されています。東部は工場適地に指定されており、工業が盛んです。河川は、小畑川が東部を南北に、小泉川が西南部をほぼ東西に貫流して桂川に注いでいます。

交通は、東部を JR 東海道本線、中央部を阪急京都線がそれぞれ並行して通過し、京都へは JR 長岡京駅・阪急長岡天神駅から 10～15 分、大阪へは 26～40 分で行くことができます。また、阪急バスが両駅から大山崎町・向日市へと連絡しています。さらに、東海道本線の東側には東海道新幹線・人神高速道路・国道 171 号線が縦走しており、交通の便に恵まれています。

本市の歴史は古く、約 2 万～3 万年前の後期旧石器時代から人々の活動が確認されています。その後も豊かな水と緑に恵まれ、現在に至るまで連綿と人々の生活の場となってきました。

特に古墳時代では各時期の首長墓が築かれ、常に中央王権とつながっていたことがわかっています。また 6 世紀初めには継体天皇による「弟国宮」が、8 世紀末には桓武天皇による「長岡京」と二度にわたって宮都が置かれました。

明治 22 年、町村制の実施によって江戸時代の村 15 ヶ村が合併して新神足村、海印寺村、乙訓村の 3 ヶ村となりました。人々は平たん部では米・麦・茶などの農産物を、西部丘陵地では特産物「たけのこ」を産出する農村として、豊かな土地、大都市の近郊、交通の至便さなどに恵まれて発展を続けてきました。

昭和 24 年には 3 ヶ村が合併し、長岡町が誕生しました。昭和 34 年ごろからは日本経済のめざましい成長にともない、京都・大阪の衛星都市という立地条件の良さから人々が流入し、また工場の進出によって急速に都市化が進行しました。

人口は昭和 45 年には 5 万人を超え、昭和 47 年 10 月 1 日に市制を施行し「長岡京市」となりました。市名は古代の都「長岡京」から命名したもので、都の名前を市名としているのは全国でもここだけです。その後も人口は増え続け、平成 23 年 5 月 9 日には 8 万人を突破しています。



本市の認知症施策

本市は、平成8年より「地域ケア会議」が開催されており、多職種協働で高齢者施策を検討する体制が定着しています。認知症施策については、乙訓医師会を中心として「乙訓認知症懇話会」が平成19年から設けられ、これを基盤とした「乙訓認知症ネットワーク」が構築されており、地域包括ケア体制については、「乙訓地域包括ケア推進交流会」が平成24年4月から3か月に1回開催されています。

また、本市と向日市・大山崎町の乙訓地域は、平成24年度から認知症のケアや予防に取り組む京都府のモデル地区に選ばれています。

5年前からは、「物忘れかかりつけ医」の制度を導入し、約40の診療所が登録しています。かかりつけ医が診察し、必要に応じて専門医に紹介、医療からケアまでをつなぐ仕組みです。また、医師会の中でも認知症に関する勉強会を開くなど、認知症のケアに力を入れています。

本市における認知症施策は京都府総合交付金を活用し、平成24年度から認知症地域支援推進員を配置し「認知症対応型カフェ」「認知症・介護予防講座」を実施し、平成25年度から「認知症初期集中支援チーム」、平成27年度から乙訓医師会、向日市、大山崎町と連携し「もの忘れ検診」を新たに開催し、予防や支援にも力を入れています。

長岡京市の認知症対応型カフェは、出前型・サロン型・医療型の3つのカフェを設営しているのが特徴です。平成27年度には、認知症予防ボランティアの養成を行い、認知症予防ボランティアによるカフェを運営を始め、自治会住民が主体となったカフェやレストランを利用したカフェなどサロン型カフェを拡充しています。

カフェの様子



ケアパス冊子とリーフレット



また、平成27年度にケアパスを作成し、認知症施策について、相談時に説明用資料として長岡京市ケアパスの冊子を500冊作成し相談機関である各包括支援センターに配布するとともに、リーフレットも作成し全戸配布し認知症の啓発及び認知症及び認知症施策の周知を図っております。

事業実施に至った背景

認知症による行方不明になられた旨の連絡が、平成25年度は7件、平成26年度は11件、平成27年度は13件、平成28年度は既に18件と年々増加傾向にあります。また、連絡を受けた方の中にはお亡くなりになった方もおられ、地域ぐるみでの見守り体制の強化が求められました。平成26年度から市内の介護事業所やスーパーマーケットなどが捜索に協力する「おでかけあんしん見守り事業」や、従来導入していたGPS端末よりも小型のGPSサービスへの助成も開始しています。また、行方不明者の情報を登録した市民へメール送信する仕組みを平成27年3月1日からスタートしました。

しかし、行方不明になられた方の早期発見・保護のための対策には、地域住民の協力が不可欠であるため、地域ぐるみの見守り体制をより強化するため、新たにBluetooth機能を活用した捜索システムを導入するに至りました。

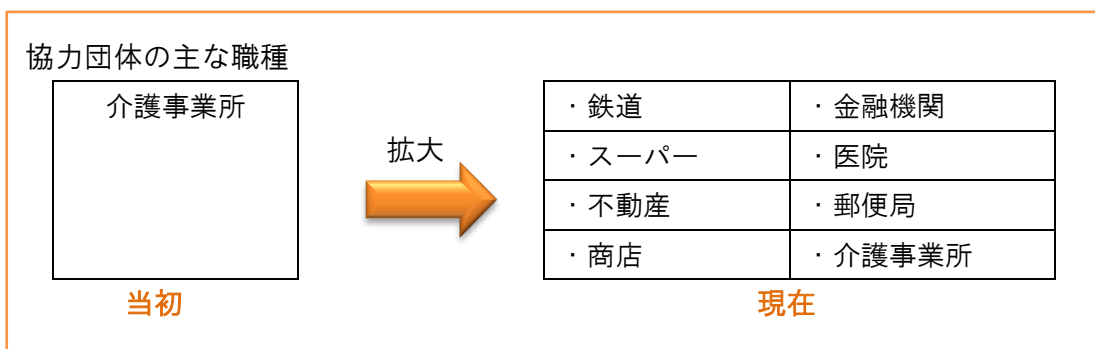
【過去3年間の人口統計と行方不明者連絡件数】

年度	総人口(人)	高齢者人口(人)	高齢化率(%)	行方不明者連絡件数(件)
25	79,997	17,419	23.0	7
26	80,035	19,357	24.2	11
27	80,338	20,154	25.1	13

※総人口・高齢者人口・高齢化率は各年度末の数値

事業実施にあたり取り組んだこと

平成26年7月に、『おでかけあんしん見守り事業』を開始し、市・介護事業所等で構成したネットワークを拡充し、乙訓医師会・向日町警察署・乙訓消防組合が連携の取れた捜索活動ができるよう関係機関として参画し、介護事業所以外の企業も含め地域全体で見守り・捜索できるようなおでかけあんしん見守りネットワークを構築しました。協力団体には、行方不明になられた時に、行方不明者の情報を記載した「情報シート」を店舗に掲示いただくとともに、通常業務の範囲内での捜索をお願いしています。



おでかけあんしん見守り事業

おでかけあんしん見守り事業として次の事業を実施しています。

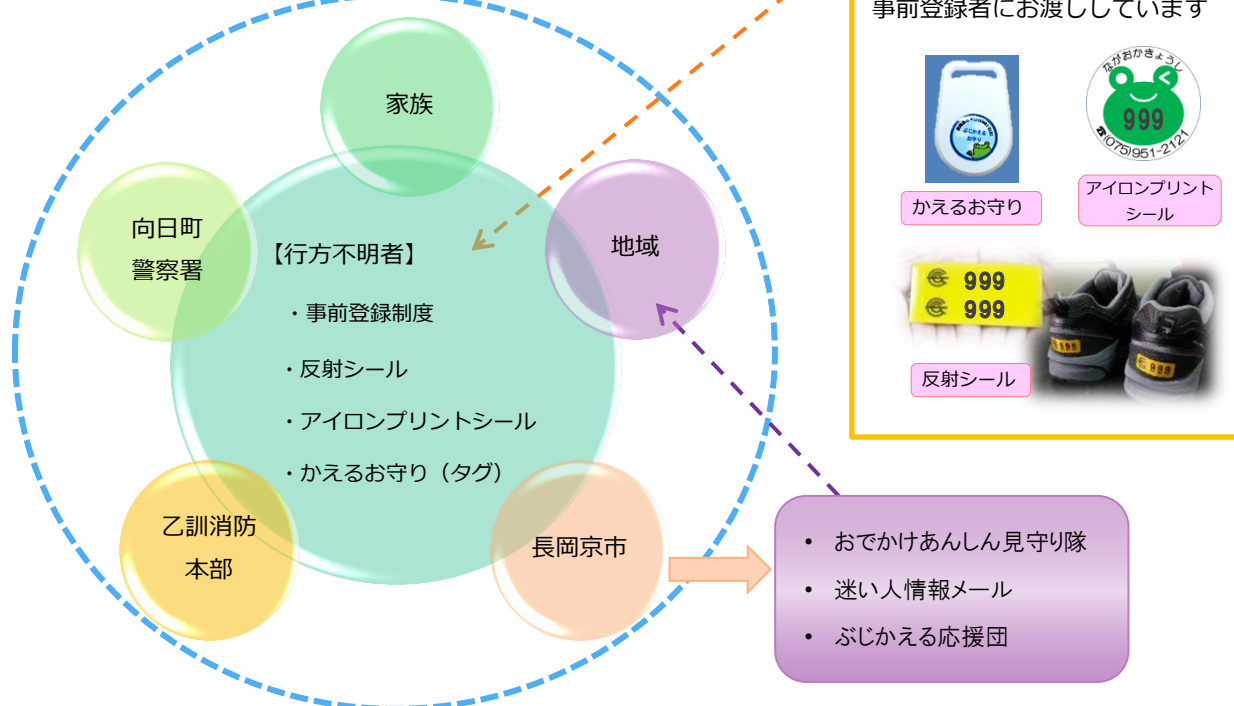
※Bluetooth 機能を利用した見守り体制も、おでかけあんしん見守り事業の一環として実施しています。

- おでかけあんしん見守りネットワークの構築
- 事前登録制度
- 事前登録者へ反射シール・アイロンプリントシール・かえるお守り（発信器）の配布
- 協力団体（おでかけあんしん見守り隊）へ登録者ステッカーの配布
- 迷い人情報メール（かえりんメール）の配信
- Bluetooth アプリ協力者（ぶじかえる応援団）による見守り
- 徘徊模擬訓練（行方不明者捜索体験）の実施

→32 ページに登録数等資料を掲載

【おでかけあんしん見守り事業の構成】

『見守りネットワーク』



【事前登録】

認知症の方、普段一人で行動されることの多い方、独居の方などを対象とした事前登録制度を実施しています。事前登録された方には、靴に貼る反射シール・衣服に貼るアイロンプリントシール、かえるお守り（タグ）をお渡ししています。

事前登録された方が、行方不明になられた場合には、登録された情報を元に見守りネットワークに情報公開を行い、捜索に役立てます。※情報公開の範囲や提供先などは登録時に確認します。

見守りネットワーク

3つの見守りサポーターによるネットワークを構築しています。

【おでかけあんしん見守り隊】



【メールサポーター】 (迷い人情報メール)



【ぶじかえる応援団】



● おでかけあんしん見守り隊

対象：団体・事業所

商店や事業所・団体を対象としており、行方不明者発生時にFAX等で情報シートを受け取り店舗等に掲示していただくとともに、通常業務の範囲内で検索をお願いします。また、見守り隊ステッカーを店舗に掲示していただくことで認知症及び事業の啓発をお願いしています。見守り隊となつていただいた店舗には認知症サポーター養成講座を受講していただいています。

● 迷い人情報メールサポーター

対象：個人

行方不明になられた旨の連絡があった時に、行方不明者の特徴や行方不明になった場所をサポーターに送信し、自身の敷地内や地域を検索していただくとともに外出時に特徴に当てはまっている方がいないかの確認をお願いしています。

● ぶじかえる応援団

対象：個人

携帯電話をBluetoothタグの受信器として活用するための専用アプリをインストールいただき行方不明になられた旨の連絡があった時に受信器として検索に協力をお願いしています。

ココがPoint!



【事前登録の特徴】

●長岡京市では、認知症の方以外の普段の生活の中で不安がある高齢者を事前登録の対象としています。認知症だから登録するのではなく、誰もが登録できる制度として登録へ抵抗なくできるようにしました。

●家族が行方不明になられた時に、自治会長や近くの方に知られたくないという思いから登録されない方もいらっしゃるため、どこにどれくらいの情報を公開するのも事前登録の項目に含みました。すべての登録者が安心して事前登録できる地域づくりを目指し、啓発に取り組んでいます。

●事前登録の項目として「あだ名」があります。長岡京市では、情報シートを作成する際に氏名の記入はせず「あだ名」を記入しています。行方不明になられた方が無事見つかれば今後生活を送っていく中で詐欺等の犯罪に巻き込まれないためです。

●登録する写真は、半身だけでなく全身写真も登録しています。

メールサポーター

登録はこちら

kaerin.nagaokakyo-wlf
@raiden.ktaiwork.jp へ空メール



空メール用
アドレス

ぶじかえる応援団アプリ

インストールは こちら

<http://www.city.nagaokakyo.lg.jp/0000005520.html> へアクセス



アプリ
ダウンロード

【ネットワークの効果】

おでかけあんしん見守り事業では先に述べたネットワークの構築により、その後行方不明になられた時に向日町警察署と乙訓消防本部と連携した捜索を実施することができ、連携方法の協議を行うに至りました。また、ネットワークを構築したことにより、行方不明になられた方の情報シートを協力団体がFAX等で受け取り掲示していただけるようになり多くの方にいち早く情報を提供できるようになりました。

ネットワーク構築に併せ、京都府の総合交付金を活用し作成した反射シールは徘徊模擬訓練や地域の団体に周知することにより、また、協力団体登録ステッカー（見守り隊ステッカー）は協力団体に市民の方から見えやすい場所に貼付してもらうことにより事業の啓発をおこなってもらうなど、地域住民・企業すべてで見守りができるよう取り組み、協力機関には鉄道、スーパー、金融機関等市民が普段利用する企業も参加しており、認知症及び事業の啓発を協力機関にも行ってもらう機会ができました。実際の行方不明になられた時に協力団体が行方不明者を発見する事例や掲示された「情報シート」を見て目撃情報などが寄せられるようになりました。



店舗入り口に貼られた見守り隊ステッカー



車に貼った見守り隊ステッカー

【事前登録の効果】

事前登録を開始するまでは、行方不明になられた時に情報シートを作成する際、行方不明者の情報や写真を入手するために数時間を有していましたが、予め登録することにより行方不明なられた時に最低限の情報のみを確認することで情報シートを作成できるようになり、早期に協力団体へ情報提供できるようになりました。

事前登録者に配布する反射シールやアイロンプリントに関しては、徘徊模擬訓練でも捜索時に捜索の目印として分かりやすいという参加者からの意見をいただいています。

【徘徊模擬訓練の効果】

本市では、行方不明者捜索体験として実施しており、平成26年度はGPSや情報シートの検証を兼ね実施しました。また、平成27年度から自治会単位等地域住民主体で実施しており捜索体験を通じて地域の見守り体制を考えていただく機会となっています。また、直接体験していただくことで、施策に対する率直なご意見をいただきける貴重な機会になっています。

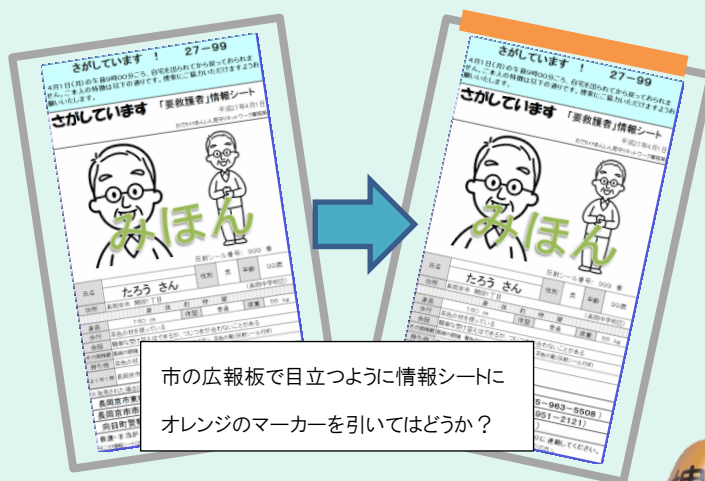


平成26年度に実施した行方不明者捜索体験の様子

実施していただいた地域では、捜索体験を実施するにあたり「行方不明になられた時に自分たちの地域に紛れ込まれていないか自分たちが探そう。地域にどんな方が住んでいてほかの方が紛れ込まれていたらすぐにわかる。」「普段から自分たちの地域の住民がわかるような関係性を作ろう。」などの目標を定められ取り組みされています。

また、徘徊模擬訓練を通じて、情報シートと迷い人情報メールを体験していただきご意見をいただいています。体験での意見をもとに、情報シートに掲載日を載せたり、行方不明の方の捜索を行うときに利用できる腕章を作成しました。

ココがPoint!

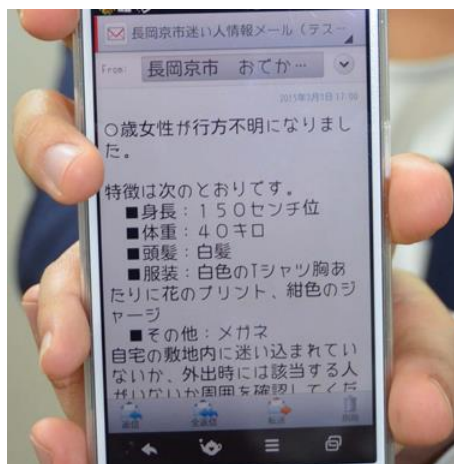


市の広報板で目立つように情報シートにオレンジのマーカーを引いてはどうか？

捜索の時に利用できる腕章を作成



【迷い人情報メールの効果】



行方不明者発生時に送信されるメール

おでかけあんしん見守り事業を開始し早期に多くの人に情報を伝達できるようになったことにより、行方不明になられている方の情報を得られた方から「自分たちも捜索に加わろうと思うがどこを探したらいいのか。」「西山の近くで所在が分からなくなったようなので、山へ探しに行ってくる。」「なにか情報はあったか。」「なにか自分たちにもできることがないか。」等の問い合わせが多く来るようになりました。このような地域の方の声を受け、また全国的にも行方不明者がお亡くなりになられ発見される場所は、警察や消防に捜索できない私有地である場合も

少なくないことから市民に直接情報を提供する迷い人情報メール（かえりんメール）を平成27年3月に開始しました。

迷い人情報メールは現在500人を超える方が登録していただいております。行方不明になられた時に情報を受け取り、自身の敷地内や地域内を捜索していただいております。発見された時には、無事見つかってよかったと喜びを分かち合っています。このような一人一人の思いを受け取れたことが、迷い人情報メールを導入した大きな成果となりました。

※情報メールに記載する情報は、行方不明になった場所・その時の服装など限られた内容です。それは、捜索に必要な最低限の情報だけを配信することで、誰でも登録し情報を確認していただくことができるため、また、詐欺等の犯罪に巻き込まれないためです。

ココがPoint!



【情報メール】

迷い人情報メールを導入するにあたり、できるだけ多くの方に、警察署や消防署が捜索できない自宅等の私有地を捜索してほしいと考え、誰でも登録してもらえるよう送信する情報は「性別と年齢」「身体的特徴」「その日の服装」「行方不明になった場所」と捜索に必要な最低限の情報としました。

迷い人情報メールには、メールを受け取ったどのように行動してほしいのか明記しています。「私有地に迷い込まれていないか」「外出時に該当する人はいないか」確認をしてほしいと情報メールを送信している目的を具体的に明記することで、受け取った人が行動しやすくしている点が長岡京市の特徴です。

GPS 助成対象機器の拡充

本市では、平成14年度から認知症等により行方不明になる可能性がある方に、GPS 機器の助成を行ってきました。助成を行ってきた機器は家族が高齢者等でも利用できるような電話等で位置情報を確認できるものでしたが、7.9cm×4.3cmというサイズから利用者からもう少し小型のものがあればと意見をいただいていた。

平成26年度、阪急阪神電鉄株式会社と協議し新たに開始される4.55cm×3.85cmの小型機器のリースへの助成を10月から開始しました。新たにリース開始される小型機器は電話での位置情報の確認ができないため、支援者が高齢者のみの場合も考え以前から助成している機器と新たに開始される機器の2つの機器についての助成に事業を拡充しました。

新しく助成を始めた小型GPSは、何も持って外出されない認知症の方のためにGPSを収納できる靴も開発されました。



本市で助成しているGPS機器



GPS機器を収納する靴



32ページに登録数等資料を掲載

見守りのネットワーク

平成26年4月と7月、平成28年10月には、郵便局や生京都生活協同組合、京滋ヤクルト販売、ヤマト運輸京都主管支店、市内にある朝日新聞・毎日新聞・京都新聞・産経新聞・読売新聞の販売所、司堂株式会社、布亀株式会社など見守りに関する協定を結び、配達の際に異変に気付いた際に、市役所が連絡を受ける体制をとっています。